

広島市教育センター報

No. 11

昭和57年11月

広島市教育センター

広島市東区牛田新町一丁目17番1号
〒730 電話 (082) 223-3563

学習トレーニングと転移力

広島市立祇園中学校長 清水孝一

「ざわついて授業ができない。授業を考えるまえに、まず生徒指導に力を入れなくては……」。こんな声をよく聞くことがある。

これは、生徒指導に多くの問題をかかえて悩みながら、日々悪戦苦闘するなかから出てくる切実な叫びでもあろう。

たしかに教室内でのざわつきがひどく、授業が成立しにくいなかでは、学活に時間をかけて、生徒との話し合いを深めるとか、学校行事の充実をはかりながら……そしてまた家庭との連携強化等のなかで……まず子どもたちの規律ある生活姿勢をつくって、それから授業を考えることも状況に応じては必要なことである。しかし、よく考えてみると、授業と生徒指導とは二元的なものでなく、学校生活の中心ともいえる授業の中にこそ、子どもの生き方にかかわる、根源的なものが包蔵されているように思えてならない。

わたしは、平素よく授業を参観し、指導者の話を聞くことがある。

●いつも静かで、楽しく授業を進めるY先生は、学年のはじめ、子どもと向い合った瞬間から子どもの実態を見つめ、指導計画をきちんと立てる。さらにその中に、学習トレーニングの計画が必ず導入され位置づけられている。

●ひょっと入って見たB先生の教室で、二つの工業地帯を比較し、関連させながら、その

共通点をさぐる、活発なグループ学習に接したことがあった。あとで聞くと、先生はさらにそれを社会的(法則的)認識にまで掘り下げる学習で授業を結ばれたとか……。

●小学校のK先生。わたしは授業の中で「感性」のトレーニングに特に力を入れているのですよ。教室の花びんにさされた花に、全員目を向けさせ、——さあ、今日はこの花とお話しましょう。——花は何を話していますか。

教室の窓を、カタコトと打つ風の音……風は何を話していますか。じっと聞いてみましょう……と。

●授業規律をきびしくトレーニングするF先生。授業中の正しい姿勢、発言の手順、質問の仕方、グループ思考の進め方…等。先生はこれをめん密にしくむことが、逆に子ども自身の主体性をたいせつにし、主体的活動を促す基礎づくりにつながると言われる。

複雑化した社会を生きぬかねばならない現代においては、社会の進展や複雑さととまどい挫折し、押し流されないで、自分の考えをもち、自分としての対処の仕方のできる、たくましく生きぬいていく子どもの育成が求められる。こうした主体的に学習する子どもの活動の基礎づくりへの教師のくふうは、全生活・活動の中で転移し、生きてはたらく力になるのではなかろうか。

カウンセリングの光と影

カウンセリングは、特別に悩みをもっている子どもや、問題の行動をする子どもの専門的な指導や治療の技術であって、学級担任には無関係であると思っている人が少なくない。



広島大学 山本多喜司先生

たしかに、最近のように暴力・非行・神経症・登校拒否などが多発重症化してくると、どうしても暗い影の面が強調され、担任ではどうにもならない、専任のカウンセラーを置いてその指導に任すべきだという意見が出てくる。

重症の取り扱いとは別として、ほとんどの子どもの問題は担任の指導にまたなければならない。

本来、カウンセリングはひとりひとりの子どもの能力や個性を十分に発揮させ、機能させるように援助する働きをもっている。現在学校生活に適應しているが、よりいきいきと個性的・創造的に学習し、活動できるように援助するのがカウンセリングの明るい積極的な光の面である。

学級担任の有利な立場

学級担任は子どものことも、親のことも一番よく知っており、子どもと絶えず接触し、指導の機会に恵まれている最も有利な立場にある。

もっとも知りすぎているので敬遠されることもあるが、個人的なカウンセリングだけで

はなく、学級活動を通して集団カウンセリング的取り扱いのできるのは担任をわいて他にはない。

担任の行うカウンセリングは重篤な患者に対して専門家が行うカウンセリングと同様ではなく、カウンセリング精神に基づいた指導である。

教科担任でも教材をパイプとして、ひとりひとりの子どもの能力や到達度に応じた指導をカウンセリング的に行うことによって、子どもの学習意欲をかきたてることができるのである。

学級担任としての基本的態度

学校の施設・設備や教材・教具は以前に比べて飛躍的に改善された。今、学校で一番必要なのは、教師と子どもの「心の絆」を結ぶことである。明るい雰囲気のもとで何でも気がねなく話しあい、お互いに分りあい、ともに力を合わせて伸びていこうとする雰囲気に満ちた学級をつくることである。

担任教師は学級の中で子どもと一緒にどのように教師としての人生を生きるか真剣に考えるべきである。

学級こそ、教師にとっても子どもにとっても学校生活の基盤である。中学生にもなると教師の生き方や生活態度を問題にするようになる。

問題を起こした子どもは「先生は俺たちのことを分ってくれない」「どうせ俺たちはダメなんだから」と絶望的な言葉をはく。

カウンセリングは、子どもを共感的に理解し、受容し、子どもの声に耳を傾ける態度が基本である。

カウンセリングは甘いという誤解があるが本当に子どもの心を理解せず、信頼関係のないところでの説教や強制がどのような結果を招くかは自明であろう。

中期（夏期）の研修講座

教育センターでは、教育関係職員の専門性を高めるため、講座研修、随時研修を実施しています。講座研修は年間を前期（1学期）、中期（夏期）、後期（2・3学期）に分けて行い、基本研修、専門研修、あわせて154講座あります。前期にこの講座に参加された先生方の数は3,389名でした。

中期には6,631名の方が参加され、どの研修会場にも熱気のある研修風景が展開され、先生方の積極的な意欲をうかがうことができました。ここに、夏期の講座に参加された方の感想の一部をご紹介します。

研修講座受講の感想から

◆ 新規採用教員研修講座（学級経営）

戸坂中学校 教諭 森本千恵子

新しい世界に入って四カ月、喜びを感じ悩みを抱きつつ過ごした後での研修講座は、どの話題も自分のものとしてとらえることができた。特に分散会での話し合いは生々しく、それだけに新しく教員になった者同士の気持ちの通い合いが感じられ、元気づけられた。

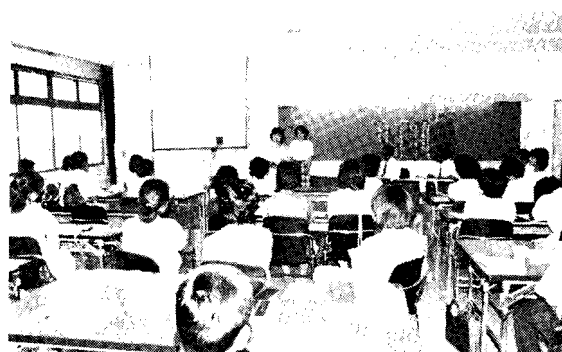


また、学級は、学習集団であること、学校教育の場であること、生活共同体的小社会であることなどが具体的に認識できたことは、今後の学級経営を進めていく上での指針となった。

◆ 新規採用教員研修講座（学習指導）

日田小学校 教諭 四辻秀弘

今回の講座では、先輩の諸先生方からの生きた教訓が数多く聞かれ、大変有意義なものであった。その中には自分の考えをひっくり返すほどの教えがあった。



「全員が全員、百メートルを十秒で走れるものではない」このことばを聞いた時、自分の画一的指導と全員を十秒で走らせようとする指導理念の誤りに気付いた。

速い子も遅い子も、それぞれのペースで学習し、到達すべきところに全員がたどり着くことが大切であるということにも気付いた。

◆ 新任教頭研修講座

己斐小学校 教頭 榎野 譲

学校長・先輩諸氏の指導のもとに一学期を終えた。直面した事態は、従前と異なるものではないのに、こと新たに感じられたのも新任教頭という立場からだろうか。

受講後、私の歩みをふりかえってみると、ただ一点を凝視するにとどまり、組織的に体系的に判断するに至らなかった。

教職員課をはじめ各関係課の先生方から頂いたご指導を、今後は実践的理解の累積とするように努めたい。

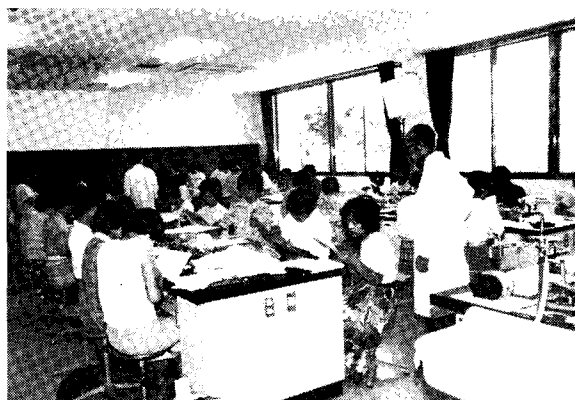
日々が豊潤な営みになるために、この7日間は開眼の期間であった。

◆ 理科実験講座

翠町小学校 教諭 網台地 妙子

低学年の理科の教科書は写真や絵ばかりが目につき、正直なところ何をどう指導すればよいのか、迷っていた。講師の先生方の入念な準備・指導のおかげで楽しく実験でき、ねらいを達成する遊びについて多くのヒントを得た。

教師自身が楽しみながら教材研究するゆとりが、充実した授業を生み出し理科の好きな子を育てていくのではなかろうか。



◆ 教育工学指導講座

清和中学校 教諭 田中 重男

「わかる授業・できる授業」をめざし、授業改善に取り組んで来た。

しかし、その分析・評価はなかなか思うようにできなかった。そんな思いから、この講座を受講した。この講座では、授業設計のあ



り方や授業分析の方法等を学んだ。

授業過程における評価活動の重要性を再認識した。また、初めて試みたS-P表の作成と分析は、授業改善のための「データ処理・分析」にとっても効果的だと思った。

この講座で学んだことを、これからの授業実践や授業研究に生かしたいと思っている。

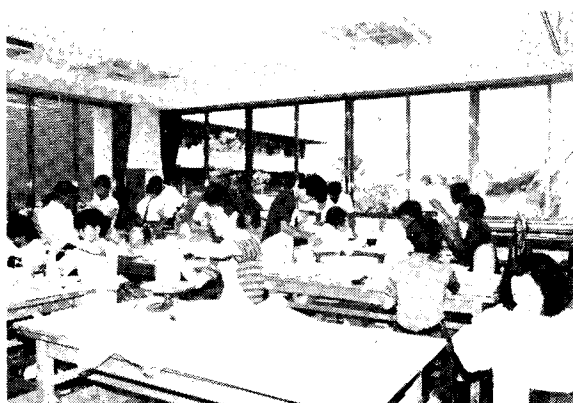
◆ 美術科実技講座

高陽中学校 教諭 行宗 雅子

「湯のみや茶わんは買えばいい。売っていないものを作りましょう。」との助言のもとに「たたら作り」「手びねり」「すかし彫り」の技法で「つぼらしいもの」に着手した。

もどかしい一日が過ぎ、友の作品を横目で見ながら帰宅。

翌朝になって驚いた。仲間達は夜のうちに熱心の実を結ばせて、そこには変ぼうした作品が光っていた。う～ん、これだから励まされるのです。かくて「完成されたものは商品ではない。」という講師のことばが深く印象に残ったのである。



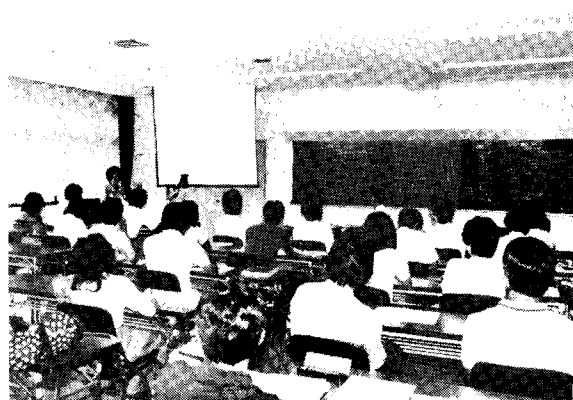
◆ 生徒指導講座

皆実小学校 教諭 曾根 照三

初日は広島大学の山本先生から生徒指導の在り方についての講義があり、生徒指導の核心に触れる内容であった。

とりわけ、具体的な事例を通しての講義はよく理解でき、これからの実践に大変役立つものであった。

また、分科会におけるグループ討議は、非行の現状や、成功した指導事例などが話し合われ、生徒指導への大きな指針となった。



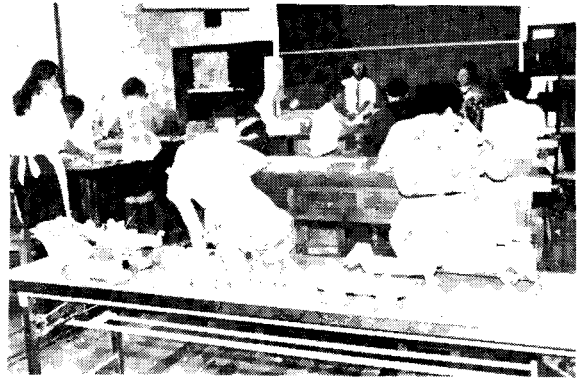
◆ 障害児教育実技講座

八木小学校 教諭 山田美子

今年初めての受講であるが理論だけの講習よりも、わかりやすく楽しく参加できた。

日頃、図工科的教材については、ぼんやりイメージは描いていても、いざ授業となると材料の選定、道具・器具の使用法等、自分で経験したことのない教材は、ひどくとっつきにくいものである。

今回、講座の内容はすぐそのまま教室で扱えるものばかりではなかったがかえって自分のレベルで体験でき、熱中できたことで、これから自分なりの授業がつくっていけるように思う。



中期（夏期）の随時研修

個人・グループ・学校等が教材研究、教材開発、研修会などで随時に教育センターの施設・設備を活用していただくことを随時研修と呼んでいます。

前期（1学期）は811名の方々が随時研修をされましたが、夏期では、1139名の方々が活用されました。夏季休業中には、天満小学校・祇園中学校等の校内研修をはじめ、小・中学校の教育研究会、広島児童美術研究会などの研修が精力的に行われました。

個人又は数人のグループによる随時研修としては、教材研究、教材・教具製作、VTR教材の作成・編集等が行われ、教育センターの職員と共に熱心に研究を重ねておられる姿が大変印象的でした。

随時研修の感想から

◆ 随時研修でのVTR教材作成

観音中学校 教諭 三木 斐

今年の5月、教育センターで同じ学校の仲間と一緒に技術・家庭科の金属材料火花試験に関する実験とVTR教材の作成を試みた。

生徒に何をいかに教えていくかを中心に、試験片を用いての実験、材料研究の後、シナリオ作成、ビデオ撮りを行った。

立派な施設・設備の中で第一作目が完成した時は、今までの苦労が忘れられる思いであった。今は木工領域のVTR作成に取り組んでいるところである。

◆ 広島児童美術夏季講習会に参加して

大芝小学校 教諭 黒川 衣子

生き生きとしたすばらしい子どもの絵を目前にして、やっぱり絵を描かせる事は、子どもの生活そのものにかかわる大切なことなん

だと実感させられた。また、実技指導では久しぶりに絵筆を持ち童心にかえって描いた。

どの題材も子どもたちにやらせてみたいもののばかりであった。

見たり、聞いたり、描いたり、とにかく、夏休みゆるみがちだった私の心に新鮮な風を送りこんでくれた講習会であった。

◆ 県中学校放送コンテストへの取組み

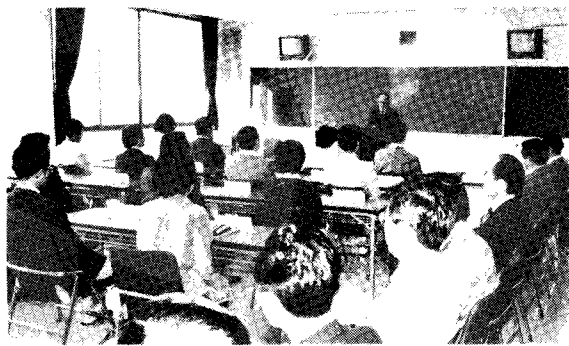
祇園東中学校 教諭 竹本 裕之

今回のコンテストに本校からはアナウンス、朗読、テレビ番組制作、ラジオ番組制作の4部門に参加し、総合1位という成績をおさめることができた。テレビ番組制作にあたっては夏休みを利用して生徒と共に教育センターに出向き、総合調整室、スタジオ、VTR編集機等の最新の機器をフルに活用させていただき高度な技術も学び取ることができた。

教育センターニュース

◆ 教育研究生制度発足

この制度は、8月から10月までの3カ月間授業に支障のない範囲で在勤校又は教育センターにおいて実践的研究を行うもので、経験10年から15年の先生を対象としています。本年度は、小学校12名、中学校4名、高等学校及び幼稚園各1名の計18名が「教師の専門職性」「教育研究法」などの基本研修を合同で実施した後、各自の設定した研究主題にもとづく研究に取り組んでこられました。



◆ 教養講座のお知らせ ◆

講師 **黒羽 亮一 先生**
日本経済新聞社編集委員
論説委員

演題 「教育の今日的課題」

日時 昭和57年11月30日(火)
14:00~16:30

場所 広島市教育センター(第1研修室)

対象 広島市立学校・幼稚園教職員、
社会教育関係職員

—— 講師のプロフィール ——

東京大学文学部卒業、国語審議会、中央教育審議会、社会教育審議会委員等を歴任

……より多くの子どもに「自立のための動機づけ」とか「感激との出会い」をより配慮してやることが、今日の教育に求められているものの一つであろう。……

著書「教育の原点をさぐる」より

◆ 教員特別研修生の受け入れ

本年度は次の3名の方が6カ月間、それぞれの専門分野に関する研修を行っておられます。

- 理科教育 沢田博考教諭(中広中学校)
テーマ 「楽しい理科の授業をめざして」
- 道徳教育 奥田英治教諭(千田小学校)
テーマ 「道徳的価値を主体的に把握させるための指導法に関する研究」
- 教育学 相良哲司教諭(亀崎小学校)
テーマ 「目標達成のためにホストテストを生かしたプランニングによる学習指導法の研究」

◆ 中・四国教育研究所連盟研究発表大会

去る10月7日、8日の両日広島県立教育センターで開催され、当所職員2名がそれぞれのテーマで研究発表し、好評を得ました。

- 中村道徳指導主事 「金属加工領域における実習題材の開発に関する研究」
- 宮河一治指導主事 「聴覚障害児の理解と指導に関する研究」

◆ 図書資料室だより ◆

本年度、新たに1,200冊を購入しました。

生徒指導に関する図書のうち、いくつかを紹介いたします。

- 生徒指導の基本 望月一宏著
- 非行の社会学 大村英昭著
- カウンセリングと人間性 河合隼雄著
- ソシオメトリーの理論と方法 田中熊次郎著
- 精神科医のノート 笠原一嘉著
- 問答式家庭の教育相談 品川不二郎他著
- 中学校教育実践講座
第2巻 生徒指導と生徒理解 木川達爾他編著
第3巻 教育相談の展開と計画 神保信一他編著
第5巻 問題行動の理解と連携指導 神保信一他編著
- 子どもの性教育—親と教師の疑問に答える— 愛知性教育研究会編

—— 編集後記 ——

今回は授業中における生徒指導及び、学級担任が行うカウンセリングを中心に編集しました。また、講座についての先生方の感想をご紹介しました。

今後も積極的にご意見・ご感想をお寄せ下さい。